

鳥取市議会建設水道委員会会議録

会 議 年 月 日	令和8年6月25日(木曜日)		
開 会	午前9時59分	閉 会	午後3時5分
場 所	市役所本庁舎7階 第2委員会室		
出 席 委 員 (8名)	委 員 長 加藤 茂樹 副 委 員 長 谷口 明子 委 員 加藤 貴志 足立 考史 秋山 智博 太田 縁 吉田 博幸 寺坂 寛夫		
欠 席 委 員	なし		
委 員 外 議 員	岩永 安子 議員、金田 靖典 議員、中山 明保 議員		
事 務 局 職 員	局長補佐兼庶務係長 毛利 元 議 事 係 主 幹 吉田 綾子		
出 席 説 明 員	【都市整備部】 都市整備部長 河田 耕一 都市企画課長 三谷 哲 都市企画課長補佐 岩崎 勝紀 交通政策課長 宮谷 卓志 交通政策課長補佐 森本 英幸 まちなか未来創造課長 筒井 真二 まちなか未来創造課長補佐 加藤 禎之 次長兼河川公園課長 徳田 剛 河川公園課長補佐 林 克行 河川公園課主査 西垣 真志 道 路 課 長 田中 裕史 道路課課長補佐 山崎 智之 次長兼建築指導課長 森田 健 建築指導課参事 広田 琢也 建築指導課参事 山崎 修 建築指導課参事 伊賀 巧 建築指導課課長補佐 小林 雄二 建築住宅課長 宮部 将 建築住宅課課長補佐 岡田 久司 建築住宅課課長補佐 竹森 潤一郎 鳥取南地域工事事務所長 藤木 保州 鳥取西地域工事事務所長 新田 洋介		
傍 聴 者	なし		
会議に付した事件	別紙のとおり		

午前9時59分 開会

◆加藤茂樹委員長 皆様おはようございます。少し早いようでありますが、皆様おそろいの方ですので、ただいまから建設水道委員会を開催いたします。まず、本日の日程でございますが、水道局及び下水道部は審査、報告はございませんので、都市整備部の審査を行います。よろしく願いいたします。

【都市整備部】

◆加藤茂樹委員長 初めに都市整備部長に挨拶をいただいた後、審査に入りたいと思います。それでは河田都市整備部長お願いいたします。

○河田耕一都市整備部長 おはようございます。都市整備部河田です。本日は前回の委員会で説明をさせていただきました2つの議案について御審議をいただきますとともに、その他報告案件といたしまして鳥取市循環バスくる梨の運行実績、収支状況等について説明をさせていただきますと思います。これは足立議員より一般質問いただきました、くる梨の収支率と市の負担額、そして、運賃の改定についてということで、市長のほうより運賃の見直しを検討する時期に来ているっていう答弁がありましたけれども、その認識に至った、くる梨の運行状況などについて報告をさせていただくものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

◆加藤茂樹委員長 ありがとうございます。審査に入ります前にこの場の皆様に一言申し上げます。まず、発言を行う際には執行部の皆さんは発言前に必ず所属、氏名を述べてから発言いただきますようお願いいたします。また、質疑及び答弁は簡潔にさせていただきますよう執行部及び委員の皆様をお願いいたします。

議案第75号令和8年度鳥取市一般会計補正予算（第2号）について(質疑・討論・採決)

◆加藤茂樹委員長 それでは議案第75号令和8年度鳥取市一般会計補正予算のうち、所管に属する部分の質疑を行います。質疑のある方は順次御発言ください。谷口副委員長。

◆谷口明子副委員長 谷口です。資料1の6ページの駅舎・トイレ管理委託事業費ですが、JR湖山駅のその駐輪スペースを確保して拡張整備するという事業費、予算ですが、この現在の、4にあります駐輪場の現況というところの、今、一番右にある写真ですが、この点字ブロックがある上にたくさんの自転車が今ある状況だということ、とてもよくない状況だと思います。それで、このフェンスの横にあるということだと、今の屋根つき駐輪場のところの右側の部分かなと思うのですが、そうなのかどうか、ちょっとまず確認させてください。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。御認識のとおりでございまして、現況図にあります緑のところは屋根つきでございまして、その図面でいいますと右側が点字ブロックがついてございますので、その写真であります。

◆加藤茂樹委員長 谷口副委員長。

◆谷口明子副委員長 今回スペース拡張ということで黄色の部分にその駐輪スペースを確保するというのですが、その確保をすることでこの部分の自転車も全て解消できるかどうかお聞きします。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。こちら、現況のほう何日か調査いたしまして、おおむね今回拡張するスペースをもってすれば十分収納できるのかなと思っております。また、一方で、放置自転車がございまして、利用者の方は停めれますけど、放置自転車の撤去も併

せてやっていかないといけないと思っております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 谷口副委員長。

◆谷口明子副委員長 ぜひここに、点字ブロック上に自転車を置かないように何とかしていただかないと本当に視覚障がいの方、本当に通常から使っていらっしゃる方もおられるかと思えます。駅舎から見ましたら、ちょうど置きやすい場所かななんて、近くてね、思います。それで、ここのフェンスのところにぜひ、その点字ブロック上には駐輪しないでくださいっていった表示を今の時点でも表示していただければと思いますがいかがでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。承知しました。そのようにさせていただきます。

◆谷口明子副委員長 じゃあ、よろしくお願いします。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 そうしますと、資料のほうの13ページですね、公園整備事業ということで、公園もここに、城跡にビジターセンターを設置ということで、この内容ですけどね、測量設計というのがあって、二千何百万、果たしてそれぐらいかかるのか、必要あるのかなというのがあったり、また、地質調査もボーリングを、あくまでも2階、3階建てをするわけでもないし、べた基礎、ある程度耐震できるような、地下はある程度掘って、ある程度耐震できるような格好あるし、その両方の業務というのがあってね、本当そこまで必要なのか。

また、この設計について、設計をただ、始めるということでも、どれぐらいの構想なのか、平屋なんか、もちろん中ノ御門や三階櫓を、この3点、また、仁風閣を見て、それも景観とその辺の全体見合わせて、それに見合った建物にせないけんと思うんでね、イメージ図とか、その辺を学識経験者、いろいろな面からチェックしながら、それで、実施に入るという格好を取らんとコンサル任せというのもいけませんね、出したら。その辺はどのように考えとられるんか尋ねます。

◆加藤茂樹委員長 徳田次長。

○徳田 剛次長兼河川公園課長 河川公園課徳田です。まず、最初の御質問でございますけども、測量設計調査のつくものにつきましては、まず、米蔵跡そのものが全体的に40センチ程度盛土して、それで、雨水排水とかそういったものの構造も含めて、もともと米蔵の、埋蔵文化財の今の土被りが20センチ〜30センチで非常に浅いものですから、まず、全面的に整備を見直すというところを考えて、測量縦横断測量とそれからあと、排水構造、それからあと、もう一度、今、現況に米蔵跡の表示をしている、ブロックのちょっと囲いでしているんですけども、そういったものの復元方法、こういったものを含めた設計とそれからもう1つ、文化庁との協議をするに当たっての資料作成と一部鳥瞰図を作成するように考えております。

それで、先ほど2点目でありました構造の話ですけども、これは一応平屋を考えております。それで、ボーリング等をなぜここまで必要かということですが、1つは、もともと今のいわゆる、べた基礎でやるに当たっても、どのぐらいの地盤の耐力があるかどうかというところを1つ調べるためにはボーリングを1か所どうしても取らなきゃいけないと、あと、それ以外に、もともと今現在、あずまやがあるんですけども、このあずまやは、平成22年に社総金で、社会

総合整備交付金で整備したものですから、このあずまやをいわゆる今の大手御門側のほうに移転することを考えておりますので、そちらのほうの地盤のいわゆる簡易調査も併せて行う予定としております。それで、全体的に文化庁と一応協議を行うに当たって、現状の今の米蔵の全体の地盤耐力がどのぐらいあるかということも、今、課題で、ちょっと宿題でいただいておりますので、そういった調査も含めて行うように考えております。

それで、平屋の部分につきましては、今、寺坂委員おっしゃったとおりで仁風閣とそれから今の二ノ丸、それからちょっと天球丸のほうまで見えるかどうかですけども、そういったところの眺望というのも考えていかなきゃいけないなということを考えておりますので、そういったことも考慮して設計に取り組んでいきたいと思っております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 すみません。関連して伺います。この期間が今年度から始めるということなんですけれども、全面立入禁止といいますか、お手洗があるわけなんですけれども、それも使えなくなるのではないかと考えるんですけれども、大体いつ頃から始めるのか、もう少し詳しいスケジュールと、それから市民は全く入ることができなくなるのか、この2点をまず。

◆加藤茂樹委員長 徳田次長。

○徳田 剛次長兼河川公園課長 河川公園課徳田です。米蔵跡全体を一部ちょっと整備する段階に当たりましては、一時的に米蔵跡のエリアのところの出入りはちょっと止めさせていただくことを考えております。ただ、トイレが全くなくなりますので、一時的にその仮設トイレを一応準備するように考えております。

あと、スケジュール的なものは、一応令和9年度から着手という予定にはしておりますが、恐らく工事を実際着手できるのが早くても7月辺りか8月辺りぐらいにはなるのではないかなというところですけども、もう1回、これから実際に設計をしまして、工程をしっかりと詰めた上で後半、12月もしくは2月の議会のほうでしっかりと説明をさせていただきたいと思っております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 7月、8月ということでしたけど、この2か月が夏休みもありますので非常に微妙な時期でありますので、その辺りしっかり考慮していただきたいと思います。それから今、寺坂委員のほうから周りの景観に配慮してということでした。これに関しましては、現在も配慮はされているのですけれども、現在の建物が木造なのか、あるいは軽量鉄骨なのかその辺り、それからいつ建築されたのか、この2点まず伺います。

◆加藤茂樹委員長 徳田次長。

○徳田 剛次長兼河川公園課長 河川公園課徳田です。久松公園の米蔵跡のトイレにつきましては現在木造の建物となっております。一番最初に昭和52年に整備を行いまして、その後平成2年に身障者用のトイレを増築するために一部トイレを改築しております。ですので、おおむね整備から約24年、今、経過しております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 現在のお手洗いが平成2年ということでUDトイレにはなっていないというこ

とで、その辺りもしっかりバリアフリー法に基づいて行うということだと認識しておりますけれども、その辺りもう一度どういったトイレになるのか御説明ください。

◆加藤茂樹委員長 徳田次長。

○徳田 剛次長兼河川公園課長 河川公園課徳田です。すみません。先ほど24年と申しましたけれども、訂正させてください。34年でございます。経過年数は34年たっております。これから一応建築する予定のビジターセンターでございますけれども、国土交通省のほうから、令和3年にもともと公共施設を木造化という話も通知で出ております。それで、極力、今回のビジターセンターに当たりましては、令和8年4月1日付で、いわゆる都市局、公園側の所管のほうからも文書通知が来ておりまして、なるべく木造を使うようにというような指導も来ておりますので、そういったことを極力、骨組みが全部使えるかどうかはちょっとこれから検討する必要がありますけれども、それに沿うような形で設計を検討してまいりたいと考えております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 御説明いただきました。木造化推進法ですね、平成22年に施行され、それ以来、建築基準法も緩和がされて木造を建てやすい状況にある。木造といいましても、集成材も木造です。できるだけ在来工法に近い形で大手御門ほどとはいいたところですが、そこまでのことができなくても、今、あずまやも残されるということですので、あずまやに近いような木が見える、材料を例えば杉材にするとか工夫をして、できるだけそういう集成材等ではない、在来の工法を使って行っていただきたいと思いますが、その辺りはどのようにお考えでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 徳田次長。

○徳田 剛次長兼河川公園課長 河川公園課徳田です。今、太田委員さんがおっしゃるとおりで、そういったものの使い分けというのも非常に大事かと思っていますので、しっかりと設計の中で検討させていただきたいと思います。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 ありがとうございます。先ほど寺坂委員おっしゃったように、建築、設計進めていく中でも、我々の委員会に御説明をいただくと同時に、学識経験者であったり、いわゆる木材の専門の方であったり、そういった方の御助言もいただきながら設計進めていきたいというふうに要望します。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 先ほど言いましたけど、このビジターセンターの考え方というか、トイレはもちろんでしょうけど、極端に言えば、販売施設とか、そういう土産物とか、その辺されるのか、300平米の中でできるのか、じゃあ、その辺の構想的なその仕様の、観光ガイドとかいろいろあるでしょう、その辺の将来的なできた後の考え方をお尋ねします。

◆加藤茂樹委員長 徳田次長。

○徳田 剛次長兼河川公園課長 河川公園課徳田です。300平米の中ですので、売店的なものができるかどうかというのはちょっとまだ何とも言えないところがあるんですけど、ただ、基本的

な構想としましては、まず、議会の一番最初の提案説明のときに市長が説明を申し上げましたけど、一番は観光ガイドの方が今現在、仮設で何回か占用して現場にいたりとかという状況がありますので、その方をまず集約したいということと、それから以前からお話がありますように、鳥取市の今の中で文化遺産であるとか、麒麟獅子であるとか、はたまたジオパークであるとか、こういったところの観光ガイドの説明ができるようなものとか、そういったものも入れて、あと、やはり一番大きいのは夏場の休憩所といいますか、避難所ですね。そういったところも兼ねて整備を考えたいと。

それで、その中のスペースで可能であれば軽微的な、そういう販売ができるようなものもちょっと考えていきたいと思いますが、今現在、商工会議所のほうの、そういう観光のビジョン委員会で、メンバーが、今、文化財団の方とか、鳥取市の観光協会、それからあと、建築の関係でありますとか、いわゆる本当の観光の関係の関わっている民間の方とかそういった方と、それから鳥取市の今、関係課とで、昨年からずっとそういうちょっとビジョン会議というのを進めておりまして、その中でも同様の意見が出ていますので、今後この設計の中で、そういう御意見聞きながら進めていきたいと思っております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 いろいろ、今後検討していただきたいと思うし、また、仮に300平米で狭いんじゃないかということで、改めて増築できる程度の、ある程度利用した、立体的な、それを含めて、将来を見据えて、取りあえず300でやるなら300で、もう少しもう100程伸ばすとか、その辺の考え方を連携して、将来的なことも考えられて検討していただきたいと思います。以上です。

◆加藤茂樹委員長 そのほかございますか。足立委員。

◆足立孝史委員 足立です。まず、街なみ環境整備についてお伺いします。最初頂いた資料の青色線が今回の実施予定箇所というところで理解しております。それで、事業別概要書のほうで、令和8年度～12年度までのところに道路美装化ということで965メートルということが書いてありまして、この青色線が965メートルということで理解していいのでしょうか。最初の質問です。

◆加藤茂樹委員長 三谷課長。

○三谷 哲都市企画課長 都市企画課三谷です。この図上に記載をさせていただいている青色の線につきましては、今年度のみの事業の箇所を記載させていただいております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 先ほどの質問は、ここの青色の線が何メートルかっていう質問でありましたけども。

○三谷 哲都市企画課長 都市企画課三谷です。

◆加藤茂樹委員長 はい。

○三谷 哲都市企画課長 失礼します。

◆加藤茂樹委員長 はい。

○三谷 哲都市企画課長 今年度の事業区間の延長につきましては約280メートルを予定しております。こちらの青い実線の折れたところが280メートルでございまして、下の2本の線が

ちょんちょんとあると思うんですが、そこが木柵を撤去して復元する、新たなものに復元するといったところで、その木柵の延長は合わせまして40メートルを計画しております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 ありがとうございます。そうしましたら、この計画の5年間で、この青色線以外にもまだあるということで理解させていただきましたが、そのほかのこの計画されている線ってというのが、また後でいいので、この12年度以降の計画をどの辺にされてるのか、また教えていただけたらなと思いますがどうでしょう。

○三谷 哲都市企画課長 今の計画期間。

◆加藤茂樹委員長 挙手お願いします。三谷課長。

○三谷 哲都市企画課長 失礼しました。都市企画課三谷です。今は7年度～11年度までの5か年といったところなので、来年度以降の残り3年間の計画期間でよろしかったでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 ごめんなさい。質問が悪かったです。今、示されている青い線ってところが280ということで、965となると、あと600程あります。その600の場所と、できればこの事業別概要に書いてある12年度以降の二ノ丸の線っていうところ、もし、このエリアの中で示されることができたら、またそれも教えていただけたらなというお願いですけども。

◆加藤茂樹委員長 三谷課長。

○三谷 哲都市企画課長 今、計画策定させていただいている区間につきましては、まさに今、計画表を策定させていただいて、公表させていただいていますので、そこはお示しをさせていただくことができます。ただ、今は令和11年度までの5か年計画は、もう既に計画は策定しているんですけど、その12年度以降の計画につきましては、現在の舗装の状況とか、そういったところも鑑みまして、次の5か年計画を、どこを計画をしていくのかといったところはこれから検討していこうかなと思っているところですので、これからの舗装の傷み具合であるとか、その辺りを確認をさせていただきながら考えていきたいと思っているところです。以上です。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 質問した意図とすれば、要は予算があって施工されるわけですけども、今のこの議会の中でもありました物価高騰、資材高騰ということを加味すると、この予算的な考え方なり、この次のこの同じ舗装、手法で、経年劣化をもっと延ばすような手法だとか、いろいろ研究していただかないと、今の気候変動で、もうフランスのほうも40度に。そういうのに耐えられるやっぱり舗装なり、次の補修も安価でできるような手法だとか、いろいろ考えていただけたらなということも含めての質問でしたので、また検討をしていただくという要望でしときます。以上です。

◆加藤茂樹委員長 ちょっと関連してでありますので、委員長を一旦交代させていただきます。

◆谷口明子副委員長 委員長、交代します。

◆加藤茂樹委員 いいですか。

◆谷口明子副委員長 では、加藤委員、お願いします。

◆加藤茂樹委員 先ほど足立委員のほうから質問ありました街なみ環境整備事業です。これは、

私、一般質問等々、何回かさせていただいております。ここの青線以外でも悪い箇所っていうのは多々あるわけでありまして、先回でしたか、田村前道路課長の、田村次長ですか。のは、何か舗装の張り替えじゃなくして、塗装工法か何かって言うられたんですけど、ちょっとその辺りを、どのような状況なものか教えていただけますか。まず1点。

◆谷口明子副委員長 三谷課長。

○三谷 哲都市企画課長 都市企画課三谷です。今回の舗装につきましては、既存の舗装を全て撤去いたしまして、新しく茶色の自然色舗装にやり替える費用を計上させていただいております。

◆谷口明子副委員長 加藤委員。

◆加藤茂樹委員 それは、青線は分かるんですけど、これ、概要書等々で。以前は先ほど言いました塗装工法を試して、色合わせ等々しているって言って、その辺りの予算も組んでいるっていう話を以前から聞いていたんですけど、その辺りは結局どうなってしまったのか、教えてください。

◆谷口明子副委員長 三谷課長。

○三谷 哲都市企画課長 都市計画課三谷です。道路課のほうが検討されたのが、土壌の部分的に陥没とか、そういったところに対応するといったところで、やり替え、やり替えて、さらに茶色の舗装をされるといったところに対応はされたと思うんですが、現状確認させていただきますと、結構、市道今町鹿野線の道路がいろんなところでクラックが入っていたり、草が生えていたりします。それから水谷川に架かっている吾妻橋のところにおきましては、結構舗装の砂利がいろいろ飛散してるといったところもございまして、鹿野支所とも確認させていただいたところ、やっぱり歩いている方たちの危険も出てきているというようなところもあって、砂利が飛散してこけたり、そういったところもあるようなところもお聞きするようなどころもございまして、なので、これまで取り組んでいた修繕といったところをやめまして、舗装を剥いで、新たな舗装にやり替えるといったところで、当然クラックが入ることで景観を阻害している要素にもなってるといったところもございまして、それを新たなものにすることで景観の維持向上を図っていききたいといったところで、やり替える費用として計上させていただいているものでございます。以上です。

◆谷口明子副委員長 加藤委員、お願いします。

◆加藤茂樹委員 分かりました。結果だけ、今までの計画ではなくして、この青線の折れたところから左側に、鹿野大橋までの区間、大工町ですけど、それから、青線から右側の上町の区間かな、この橋までの。結局それはもう塗装じゃなくて、順次舗装の貼り替えということによるしいということですか。

◆谷口明子副委員長 三谷課長。

○三谷 哲都市企画課長 都市企画課三谷です。先ほど委員様がおっしゃられたとおり、大橋の手前の県道の鳥取鹿野倉吉線に接続するところの入り口から右側の水谷川に架かっている橋の上まで、全て舗装を撤去して、新しく舗装に、し直します。以上でございます。

◆谷口明子副委員長 加藤委員。

◆加藤茂樹委員 分かりました。多分、工期的にこれ結構長い期間かかると思うんで、この城下町のこの中の道っていうのは、交通っていうか、住民も結構通りますし、通学路にもなっていますので、その辺りもししっかりと検討して進めていただけたらと思います。以上です。以上で、ちょっと委員長席に帰らせていただきます。

◆谷口明子副委員長 では、委員長交代いたします。

◆加藤茂樹委員長 すみません。委員長戻りました。そのほかございますか。寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 資料9ページですけど、遊休不動産利活用の推進事業費ということで、その前に、内容の前に、旧とりせんでまちパル鳥取というのが、何か日交の持ちもんでね、何かもうその後、どうでしょうかね、詳しいことは分かりませんが、もうそこをやめるとか、そういうのがあったりして、そういうこともあるでしょうし、空き家いろいろできるとというのがあるんですけどね、その辺の考え方。

この第2期構想策定にも官民連携で取り組むということがあるようですけどね、このブルーのゾーニングの中で、どういうメンバーでやられるのか、また、私のほうのあの辺、銀行とか金融機関もあり、2社あり、その辺で、前から旧のとりせんの合銀の跡といいますか、合銀の車がほとんど、軽自動車がいっぱいあって、ほとんど動かれてないと。もう少しあの辺辺りを、中心でもあるんで、屋台村でもいいし、何だ、その辺の何かならんかなということで、ある関係者の方、ちょっとトップクラスの人ですけど、そういう話ししたら、市からもう少しそういう話をどんどん上げてもらえば検討してみたいみたいなことを言っとられてね、やはりその関係者、いろいろまちづくりをどう向きにするのか、空きスペースや今後その辺の考えを、官民連携といいますけど、取組の考え方をちょっとお尋ねします。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。まず、資料の左下の青く網かけをしていますこのエリアなんですけど、これは、この資料の項目の2の事業の内容の、一番最後の丸ポツですね。3番目の丸ポツに係る図面になりまして、先ほど委員さんおっしゃられた第2期鳥取市のリノベーションまちづくり構想の策定支援事業に関しましては、中心市街地全域での構想を策定していくっていう考え方でおります。

それで、どういうメンバーで策定を行うかというところなんですけども、こちらは、これまでリノベーション、平成の26年から鳥取市はスタートをしております、それからこれまでの間、利活用、実践をされてる民間事業者の方が多数おられまして、そういった実践者の方、民間事業者の方を中心に構成をしていこうかなという考えでおります。当然、中心市街地活性化協議会でありますたり、商店街組合の方でしたり、若桜街道活性化協議会の方でしたり、そういった町なか、地元の方も参画をいただいて、総力を挙げて、官民連携で策定をしていこうという考えでございます。

それで、今回は2期目ということになりまして、これまで10年、この構想で取り組んできましたけども、実績といたしましては、平成26年からの取組でカウントすれば約30件の事業化が行われています。現時点では約20件が営業を継続されているという実績でございます。それで、国におきまして、令和8年3月31日に中心市街地の活性化を図るための基本方針の改正

を行われております。その中で、国においてもリノベーションなどのまちのストックを生かす取組を促進するための重点的な取組として位置づけもされておりますので、そういった国の方針のほうも踏まえまして、このリノベーションのまちづくりをさらに加速をしていくための第2期構想として策定を行っていくというものでございます。

それで、とりせん角につきまして、日交ビルのほうは、まだ活用、今後の活用については未定ということでお伺いもさせていただいております。その前の合銀のパーキングの利活用についても、我々も鳥銀の上層部の方と何とかこの鳥取市のまちなかの中心の拠点である立地でございますので、何とか活用ができないかというところの議論も始めさせていただいております。それで、そういった合銀の皆さんとも、このリノベーションの構想の中でも、御意見等伺いながらしっかり取り組めていくような内容で策定を進めたいというふうに考えております。以上でございます。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 加藤紙店っていうか、カトカミとかできるわけですけどね、部分的では、全体的な若桜街道、とりせんっていう、昔の一番のメインの通り、角ですんでね、駅前の方の5施設もでしょうし、また、あの辺の若桜街道独自でもその辺の空き店舗を利用したような感じで、先を見越してその辺の2軒、3軒まとめて、また1つにされるのか、複合施設もあるでしょうし、そういう構想とか、検討を関係者で取り組んでいただきたいと幅広く、それを要望します。

◆加藤茂樹委員長 要望ということであります。そのほかございますか。太田委員。

◆太田 縁委員 次のページ10ページ中心市街地活性化基本計画の策定費ということです。この事業の内容で委託費が計上されていますが、この中身ですね、対象エリアの分析、市民関係者の意見把握等々記載があります。ここの中身について、例えばどういった方に意見を伺おうとしているのか、検討委員会の運営、どういったメンバーで行おうとしているのか、この2件をまず伺います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。まず、ここの市民関係者の意見の把握というところなんですけども、今回この中心市街地の中で幾つかエリアごとで取り組んでいこうという考えを持っています。そのエリアごとで、住民の皆さんとか、事業者の皆さんにも参画いただきやすいイベントを開催していこうかなと思っています。そのイベントの内容についてはそのエリアについて、どのようなポテンシャルがあったり、課題があったりとか、あとはまちづくりの有識者の方をお招きしたディスカッションであるとか、そういったところのイベントも開催しながら市民の皆さんとか、地元の皆さんの意見の把握をしていこうというような内容で、今、検討をしております。

それで、グランドデザインの策定に関するこの検討委員会のメンバー構成なんですけども、都市計画ですとか、都市建築の有識者をはじめまして、あとは商工会議所、中活協、商店街組合ですとか、あと、先ほどのリノベーション構想の策定と同様に、やはり現在空き家をリノベーションされている実践者、民間事業者の方、これを中心に添えたようなメンバー構成で検討

していきたいなというふうに考えてございます。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 先ほどのリノベーションまちづくりと随分重複するような部分があるのではないかと考えています。それで、中心市街地のこの活性化計画を作るに当たってもこの遊休不動産活用推進事業費、ここに関わる実践者の方々とも協議をするということですが、もう少し合理的といいますか、予算が重複してこの限られた予算の中で意見がたくさん出るような仕組みというか、そういったことはどのようにお考えか、あるいは考えていないのかお伺いします。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。太田委員さんおっしゃるとおり、重複するメンバーの方も当然おられます。そこを効率的に行うために、同日にこの会議を開催したり、イベント等も参画を共同でさせていただいたり、そういったことの効率性を図りながら取り組んでいこうという考えでございます。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 イベントを開催して住民の方の意見も伺いやすい場面を作っていくということは非常に理解をします。しかしながら、やはり先ほどお名前が出ました合銀さんであるとか、そういった拠点になられるであろう方々と、もう少ししっかり話を詰めて、いわゆる2段階、3段階っていうふうになるのかもしれないけれども、そういった鳥取市がどうしたいのかということを、やはり土地の所有者であられるとか、そこをまずは協議をする必要があろうかと考えます。先ほども話はされているということでしたけれども、その辺りスピード感を上げていくためにはどういうことができるのかお伺いしたいと思います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。進め方といたしまして、すみません、説明の不足ですけども、コアメンバーとして、そういった中心となる方々、事業者の方々に参画をいただきまして、まずはコアメンバーで叩き台を作っていこうということでの効率性を図っていきます。また、事業性も高めていくような進め方をさせていただきます。その上でここに書いてある検討会、大きな会議体の中でその叩き台をさらに検討を進めていくというような進め方を考えてございます。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 この中心市街地活性化基本計画がもう、また次の期になるのかと、あっという間にその策定をされて、そして実行して、また見直しという、この繰り返しが非常に自分の肌感でもすごく短いスパンで行われている。じゃあ、その中でどれだけの成果があったのかという、その辺りが策定に追われている感が非常にありまして、もう少しその現状の問題点をしっかり精査して、そして事業を進めていくための計画であるとならなければ、何か計画のために費用と時間を費やしているような印象がすごくあります。子どもの稽古じゃないですけど、稽古のための稽古じゃなくて、やっぱり試合に向けてということで、やっぱり実践に向けてもう少しスピード感を上げていただきたいというふうに考えていますけども、そんなに時間がすご

くあるわけではないので、先ほどコアメンバーで叩き台を作ると、それが1つの合理的な進め方かもしれませんが、その辺りはどのようにお考えかもう一度伺います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。中心市街地のこの活性化基本計画は4期目を迎えているわけで、次期は5期目を迎えるんですけども、これまでの策定の進め方といたしましては、単年度での取組となっておりました。先ほど太田委員さん言われたように、やはり実行性を高めていかないと、中心市街地の活性化は実現できないという認識でおりまして、そのためにはやはり2年間ぐらいかけてしっかり現在の検証・課題をしながら、より実効性を高めるようなプランニングをしていかないといけないという認識でおりまして、今回5期目に向かっては、前倒しをして2年かけてこの中心市街地活性化計画を作っていくというところで実効性を高めていけるのかなと思いますし、これまでではどちらかと言うと、行政主導での取組となっておりましたが、ここはやはり民間主導でのまちづくりに転換していかないといけない、もう時代に入っているのかなと思いますので、その辺民間の事業者の皆さんが本当に投資をこの街にいただけるようなプランニングをしていく、そのためにはやはり実践者が中心となった進め方をしていかないとはいけませんので、そういった取組をしっかりと進めていこうかなというふうには考えております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 民間の力を借りながら民間主導というか、そういうふうに進めていくと、しかしながら、このやっぱり行政の役割ということをしっかり肝に銘じて、行政でしかできない役割というのは非常に多ございます。そこのところは、もう一度紐を絞めてといいますか、しっかりやっていただきたいと思います。以上です。

◆加藤茂樹委員長 そのほかございますか。寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 6ページですけど、駅舎トイレ管理委託事業費ということで湖山駅、これはJRの湖山駅で大学駅ではない古い分でしょうけど、前のほうの駅ということで、これについて確かに乱雑にオーバーになっというわけですけど、これはいずれにしても、今、自転車小屋の中に置かれている分でも、もう全然使われていないとか、定期的にある程度処分するとかしないとか置かれっぱなし、就職して学生時代にちょっと入れたけど、あとは、もう、全然いらんとか、そういうのがあったりするんで、その辺は処分をきっちりチェックしながら処分するとか、それでまたスペースをできるだけ、あまり拡大せずという格好を取られるでしょうし、もう1点、私も津ノ井駅のほう見とって、津ノ井駅も、前にも言いましたが、課長に、非常に乱雑になって増えとると、トイレの周辺や駅舎の辺近くまで、出入口までどんどん停められると。やはり鳥工があり、智頭のほうに行かれる方、市内に行く人や、周辺から、また、今度八頭のほうから今度は青翔開智に行かれる自転車、どっと一団が、一行がもうどっと10何台行きようりますんで、そういうことやあなどがあって増えとると思うんです。学生時代の、この学生の皆さんの自転車は、それと環境大学生もおりますけど、それを含めてチェックを十分にしてもらって、古いものは処分しながら、それで、できるだけスペースがない分だったらその辺の場所の拡張とか、その辺も検討をしていただきといいますか、その辺はどうでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課の宮谷です。委員おっしゃるとおりでございまして、いくら拡張しましても、そこに停められないと意味がございませんので、やはりまずは啓発というところで、整理整頓して停めていただくといったこと、先ほど、また谷口委員からもありましたけども、やはり点字ブロックなんかには置かないように注意喚起もしてまいりたいですし、そのために適宜チェックはしていきたいなと思っております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 関連です。今のお話で令和6年度に湖山駅のほうですね、整備をしてその後、台数が増加ということなんですけど、これは乗降者数が増えとるという認識でいらっしゃるのかどうか伺います。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課の宮谷です。湖山駅の利用者は、実は増えてございせんできて、自転車利用者、やはり学生利用が多ございますので、少し年によって利用の増減があるかなというところでございます。あと、聞き取りなんかしますと、鳥取大学の学生なんか、年度替わりの際にちょっと置いて帰られるようなパターンもあるようですんで、放置自転車の撤去と併せながら整理整頓をしていきたいと思っております。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 JRの乗降者数が増えているのであればいいことだと、また、足りなければまた増やしてほしいなというふうに思って質問をしたんですけど、そうではないということでした。併せて、先ほど寺坂議員のほうから津ノ井駅の現状のこともありましたけれども、ICカードといいますか、そういったことで乗降客数も把握できるようにはなってきたのではないかと思いますけど、JRの利用者ですね。そういったことも含めてこの各駅ですね、駅の駐輪場の台数が不足しているのか、あるいはおっしゃったように放置自転車が増えているのか、そういった調査は一度していただけたらというふうに、これは要望したいと思いますがいかがでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。委員おっしゃるとおりですので、現状把握は必要だと思いますので、確認してみたいと思います。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 ありがとうございます。やはりJRを利用させていただく高校生であったり、中学生、学生さんですね、利用しやすい環境を整えていくことが、利用者数を伸ばしていくことにもなるかと思っておりますので、ぜひよろしくをお願いします。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 資料の18ページです。市営住宅長寿命化対策費ということで、RGの3棟とRG4棟で、移転補償費というのがありますね。11世帯や10世帯、この内訳、現状でそこに入っておられる方だけなのか、それだけなのか、ほかの方は自宅があるとか、これはこの考え方といいますか、そういう11世帯、10世帯のこの2棟の、どの程度見て、何回か見て、民間と

か、その辺の補償費をどのように考えておられるのか、その中の内容説明をお尋ねします。

◆加藤茂樹委員長 宮部課長。

○宮部 将建築住宅課長 建築住宅課宮部です。この移転補償費につきましては、現在改修前に住んでおられる世帯の方が対象になっておりまして、ここの改修期間内にほかの市営団地、市営住宅、あと、民間等移転先への補償費ということでございまして、定額で17万9,000円という1世帯当たりですね。決まった数字がありますので、それで、算定しております。以上でございます。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 額のことを言うわけじゃないですけど、400万近くで21世帯、20万程度という弱ですよ。それで、これが、工事期間が1年ぐらいかかれば12か月分の家賃となれば果たして2万、もう市営住宅かどうか分かりませんが、空いとるかどうかが分かりませんし、その辺の考え方がちょっと聞きたかったけど、要は11世帯と10世帯というのは入居数が全体的ではその8割ぐらい、7割ぐらい住んでおられるということはずっと聞いておりますけど、果たしてそれだけなのか、3階、4階建てで11世帯だったら全然、1階3世帯とかいうふうになるんで、その辺全体の世帯数やその辺の補償の考え方をちょっとお尋ねします。

◆加藤茂樹委員長 宮部課長。

○宮部 将建築住宅課長 建築住宅課宮部です。1世帯当たり17万9,000円というのはあくまで引っ越し代でありますので、家賃等とはまた、関係ありませんので、どの世帯にしても17万9,000円というものになっております。以上でございます。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 家賃は個人で別のところは別に払わないといけんということで、引っ越し代だけということですね、この全体の11と10というのはどうでしょうか。入居者、現在の入居者ということですか。

◆加藤茂樹委員長 宮部課長。

○宮部 将建築住宅課長 委員おっしゃられるとおりで、改修時に住んでおられる方の所帯数ということです。ですので、そこを改修するに当たって住めなくなる方をほかに移ってもらうという移転費のみであります。以上でございます。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 前々から言っていましたけど、私、この前も言いましたけど、入居率の考えで、ただ、4階建てをどんどんどんどん新しくリフォームして、だんと億単位、何億もかけてするよりも、1棟取り壊すとか、その辺をすとか、整備を減らすとか、その長寿命化計画がいろいろあるでしょうけど、その辺はやはりちょっと考えて今後、まだ次の市営住宅があるでしょうけど、古くなった。それを考えていただかんと。この入居率でも1世帯、1棟が10世帯というので、ほとんど半分以下という考えでしょうけど、住んでおられるのは。もう70も80っていうわけではないでしょうが、半分以下だったら2階建てに住むやあな感じですがな。今度建てるのも2階建ていいじゃないかというぐらい、もう設計されとるんでしょうけど、その辺のやはり今後の市営住宅の考え方をちょっと検討していただけたらと思います。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 足立です。関連して、この引っ越し費用というのは片道っていいですか、出ていくだけの引っ越し費用なのか、要はこの21世帯がまた帰ってこられるよということでの引っ越し費用なのか、そうすると出て入っての2回になります、その辺ちょっと教えていただけますか。

◆加藤茂樹委員長 宮部課長。

○宮部 将建築住宅課長 この17万9,000円につきましては、出られる、移転先へ移られる移転費でありまして、仮移転の方また戻ってこられますので、その際はまた本移転でということになります。以上でございます。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 すみません。そうしましたら、今のこの21世帯で一応、今の予算の中で出られるということは分かります。今の、先の答弁で帰ってこられる人はまたそこでっていうことであれば、新しくなったときに、誰も帰りたいたいと思う。この住居地が生活の中で一番いいということであったり、家賃の負担であったりいろいろ生活の中でここで今、住まわられていて、それが新しくなるというのであれば戻ってこられるほうが多いのかなと、これは予想ですけども、その中で今、上がってる移転費用は出られるときだけのというふうになると、また次に、補修後の戻ってこられるときにまた移転費用というのがかかるわけでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 宮部課長。

○宮部 将建築住宅課長 仮移転ですので、戻りたいという方は本当にいらっしゃいます。本当にというか、移転先にそのまま住みたいという方もいらっしゃいますけども、やっぱりもとの住宅に戻りたいという方については移転費用を出させていただくということになっています。以上でございます。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 今の答弁だと、ある程度把握されてるということでの理解でいいでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 宮部課長。

○宮部 将建築住宅課長 現在、大森団地RG3棟につきましては、22戸改修されますけども、それで、仮移転先から戻ってこられる方は14戸が戻られる予定となっております。なので、ですので、これは。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 後でいいです。今、答弁はいいにしますけども、このタイミングで、もう出てしまいたいという方は、もう自動的に改修しようがしまいが出ていかれるのであれば引っ越し費用いらんのになと、ちょっとけちった話をするんですけども、改修のために移転費用出すということは戻ってこられることが大前提ではないかなと。であるからに往復の移転費用というのは当然必要だという、改めての計算はできると思うんですけど、もう建て直すのでタイミングよく引っ越し費用が浮くわというような変な言い方ですけど、うがった見方ですけど、そういう方のも移転費用ということになるとちょっとサービスがよすぎるかなということとは意見です。今の数字のほうはまた後で教えていただいたら結構ですので、もうこれは質問終わります。

◆加藤茂樹委員長 先ほどの宮部課長の答弁で、20 何世帯が出られて帰ってくるのが 10 何世帯っていう答弁だったので、結局出て帰ってくる数が減るからという多分足立委員の意見なんですけど、これは間違いないでしょうか。例えば 20 出られて 20 帰るんでなくして、20 出られて 10 しか帰ってこないという先ほどの答弁だと感じましたけど。

◆加藤茂樹委員長 宮部課長。

○宮部 将建築住宅課長 建築住宅課宮部です。移転補償費 11 世帯となっておりますけども、すみません。先ほどのちょっと 14 戸戻るというのはちょっと数字が恐らく違ってしまっていて、11 世帯出られる中、戻ってこられる、今年分になりますので 10 世帯が戻ってこられる費用になっておりまして、R G 4 棟につきましては今度出られる世帯になります。その改修工事に入る前に意向確認を行いまして、例えばそういうところ、団地が材木団地だとか、空いた部屋、空き部屋を確保しておりますので、改修工事用に。そちらにもう本移転でもう戻ってこないよっていう方もいらっしゃる、大森団地がいいんでって言って戻ってこられる方もいらっしゃる。ですので、そこはちょっと入居者さんの意向次第ということで、出られるときには 17 万 9,000 円。また戻られるという方は同じくその際にはまた戻られる費用を出させていただくということで、すみません。ちょっと 14 戸というのはちょっと。

◆加藤茂樹委員長 いいですか。そのほかございますか。加藤委員。

◆加藤貴志委員 失礼します。6 ページ駅舎・トイレ管理委託事業費についてお尋ねです。関連してなんですけど、この自転車、先ほど鳥大生が休みの間に放置して帰っているという話があったんですけど、その放置した自転車を撤去するときの基準ですね、例えば何か月以上貼り紙して置いてたら撤去しますみたいなルールって決められていますか。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。この放置自転車の撤去につきましては、この鳥取駅前周辺もそうですけども、一度貼り紙をしまして、一定期間を置いた後に警察等に持ち主照会をいたしまして、一定期間保管してそれでも持ち主が現れない場合は撤去するような流れにしております。

◆加藤貴志委員 分かりました。ありがとうございます。

◆加藤茂樹委員長 そのほかございますか。足立委員。

◆足立考史委員 足立です。駅周辺についてお伺いしたいと思います。左下のレイアウト案ですけども、これは最新の令和 8 年度に作成されたものでいいのかどうかですが、以前 A 3 でいただいたレイアウトとそのときの今後変更がありますということで書かれていたので、それとこの左下のは特に変更ないように見えるんですけど、その辺 1 つお伺いします。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 変更ございません。これからまたいろんな協議を重ねていく上で、ひょっとしたら可能性はあるという認識でお願いしたいと思います。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 そうしましたら、事業内容のところで少しお伺いしたいんですけども、3 番目のオープンハウス型説明会、これの 15 か所というので何か答弁がありましたけど、15 か所全部

聞いてもいいんですが、ちょっとメイン的なところで集客等々何か計算っていうか見込みでされてると思うんですけど、その辺と、この期間をお伺いします。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。一番メインとなりますのがこの本庁舎1階の東側のエントランスのほうに設置をさせていただきます。あとは市民の方が大変多く利用されている鳥取駅構内ですとか、あとは鳥取大学と環境大学の校内をお借りをするところと、あと、イオンモールの鳥取北店ですね、そしてイオン鳥取店、こちら今、工事中なので使わせていただくかどうか、今、交渉中というところなんです。あとは各支所管内ということで、支所管内も、それぞれの支所管内で大きなイベントが開催されるタイミングでその会場で設置をさせていただいて、市民の皆さん、住民の皆さんが参加をしていただきやすい場所を選定させていただいたというところになります。

それで、期間につきましては全体的にも8月の下旬～10月の中旬までをかけて開催をさせていただきます。大体この頃はパブリックコメントを予定しているということで、そこと同時並行で取組をさせていただこうと思っています。それで、市役所本庁舎のエントランス部分については、これはその期間毎日開催をさせていただいて、あと、支所のほうではイベントのスポット的に開催をさせていただいたり、イオンモールですと土日で市民の皆さんが多く利用されるタイミングを見計らってスポット的に開催をさせていただくという考えでございます。以上です。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 そうなりますと、このオープンハウス型で、ある程度市民に向けての情報発信という捉え方をさせてもらおうかなと思うんですけど、そのときにプロモーションである映像等々も出され、その上のVRモデルというバーチャル的なものの映像も見れるということになると思うんですけど、それらの設備がこのオープンハウスの設置に当たって、常設ならいいですけど、イベントごとっていうのが先ほど支所のほうでありました。そのことにたんびたんびお金がかかってのこの予算になるのかそここのところをお聞かせください。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 スポット的な開催についてはその都度の予算を計上させていただいております。内容的にはモニターですとか、あと、パソコンなので比較的規模の小さいものをリースをさせていただいたり、市役所の備品であるものは活用したりということで経費削減にも努めさせていただくという考えでございます。以上です。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 それで、先ほど答弁の中でパブリックコメントが秋ぐらいということであったと思うんですけど、イベントごととか、今でも本庁で常設されるならアンケート用紙とか、何かその都度の感想でも取るような考え方は、予定はあるのかお聞かせください。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 市民の皆さんからの意見集積についてはこれまでもさせていただいているやり方なんですけども、これは、もうホームページ上で随時意見をいただけるよ

うにさせていただいておりますし、そういった取組も並行してやらさせていただきますし、常時アンケート調査も会場に設置をさせていく、常時設置をさせていただくという考え方で進めさせてもらっています。

あと、こういったオープンハウス型以外に3回目になる市民フォーラムの開催も8月の下旬に予定をさせていただいておりますし、いろんな事業主体の皆さんですね、経済会や障害者団体の皆さんとか、あと、市民団体とか、先日は5月に、15日でしたかね、自治連合総会のほうにも出席をさせていただいて事業説明のほう、させていただいたり、いろんな市民団体の活動の会合の場でも積極的に説明をさせていただくということで、いろんな取組を通じて市民の皆さんへの丁寧な説明と意見集約に努めさせていただきたいと考えています。以上です。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 きめ細かい取組だろうと思いますけども、このパブリックコメントではなくて常時そういうふうな意見を聞かれるような取組の中で、肌感覚でもいいですけど、市民の関心度、どれぐらい回答があったとか、提案があったとか、数字までは今、難しいと思うんですけど、課長、肌感覚で市民が駅周辺、駅前の、感覚でどれぐらい持たれているのか、その辺の感覚でいいのでお答えいただけますか。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。これまでホームページ上で随時意見やアイデアをお寄せいただいているんですけども、大体今の時点で400件近くいただいております。あと、いろんな説明会の場で、会合の場ですとか説明をさせていただいておりますけども、やはり関心度は非常に高いものを実感もさせていただいております。特に若い人たちですね、学生さんとか、中学生の方とも意見交換もしたことはあるんですけども、やはりこの駅周辺再整備にすごく明るい気持ちになりましたというコメントも、以前地元紙でも報道されていましたが、かなりやっぱり期待度は高いのかなと思っています。特に今回の駅周辺再整備の中で、市民の皆さんが一番関心を持っておられるのはやはり複合施設に何が入るのかどうか、どんな機能が入るのかどうかというところをやはり関心を持っておられるのかなというふうに実感をしております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 その関心度のあるところもVRで見れるのかどうかもあるんですけど、まだ、中に何が入るか全然示されていない中での希望ばかり持たすような話もできんでしょうし今言いましたVRについてです。変更もあるかもしれないですけど、3Dっていいですか、立体感を持った映像が見れるというところであって、この今、出されているイメージ図の中のVRとしての意見をもらって、今後の計画に落とし込むということだろうと思うんですけど、この今のイメージ図がありきでのVRで本当にいいのかなと。

何が言いたいかといいますと、このVRの今、予算がここで700万という大きな金額でそのVRの持たれておる意味合い、鳥取市としてこのVRで何を求めているのかが少し理解がしにくくて、議員の中でもいろいろこの700万という数字と、このVRをされようとする整合性といえますか、理解がなかなかしにくく、この予算をほかに使えたらなというような変な言い方

ですけど、そんな意見もあります。このVRについて今の取組として説得をしていただけるだけの思いなり、何をこのVRでしようとしているのか、今一度、お聞かせ願えたらと思います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 このVRのモデルを作成する意義ですけども、特にこれまでにいろんな方々と意見交換をする中で、最近では西高や東高の生徒さんたちとの意見交換をさせていただく中で、今、3月末に公表させていただいているイメージパースが2種類ぐらい公表させていただいているんですけども、やはりそういった平面での図面だとなかなかこの空間的な把握が、理解ができない、イメージがちょっとしにくいなというところで学生さんからは、デジタル技術を活用したような本当に今ある世に出ている3Dみたいなものを作成したほうがよほど理解が深まるといったような御意見もいただいていますし、今年の1月22日の日本海新聞だったと思うんですけども、市民の間でやっぱり駅前一帯がどのように変わるかがやはりイメージが見えないといったような報道もされておりました。

それで、そういったところも含めて、やはり丁寧に、今、どのような形で駅が生まれ変わろうとしているのかをイメージパースは既に公表させていただいているんですが、あれを少し、もう少し3D化をしながら理解を深めていただくような材料として作成をしていったほうがよほどこの事業の理解度が深まるのかなというところでの予算計上させていただいたところでございます。当然、3D化を図ると、それがあたかも完成なのかという認識も持たれる可能性もありますので、そこは、まだこれからの議論、さらには今回のこの3Dモデルを見ていただいて、市民の皆さんから意見もいただきながら、まだまだ、これは変更かけていくような段階であるということも丁寧に説明をしていくように考えております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 ありがとうございます。VRで今、感覚的に鳥取駅前が明るい展望で見られるというようなことは大体理解しますが、実際に今のこの図面で動き、動線ですね、考えてどうなのかな、鳥取駅降りて、広場があつて、乗り場が遠いという、タクシーが特に遠いということとか、車椅子の方が地下道を通るのか、そこのどういうエレベーターがついて地下道でも行けますよということは、まだ、ここで見えてないんですけど、動線としたら今よりちょっと不便になるような動線になっているんじゃないかというような、個人的な思いですよ。というようなことがあったりして、本当に先ほど答弁の中で障がい者の方とも意見交換されたということで、図面の中での意見交換よりはそのVRでしっかりどういうふうに車椅子が動くのか、点字ブロックがどうなのかというような細かいところまでの情報を、もし、収集してほしいなという思いがあつて、この費用対効果ではないんですけど、VRを今、早急にして必要なかどうかということがちょっと疑問に思っていたので聞かせていただいたというところです。ほかの委員さんも意見があるかと思うので、私は以上で終わります。

◆加藤茂樹委員長 関連してありましたらまず、太田委員。

◆太田 縁委員 関連して何からという感じなんですけど、まずは今回のここに記載されている素案の公開と併せて理解を深められるよう周知を推進するということであるけれども、変更し

なる可能性があるということで、その変更というのがどれくらいの変更を変更とされているのかという、とにかく今の素案を周知したい、あるいは駅を改修していくことに理解をしてほしい、関心を持ってほしいという段階が非常に分かりにくいんですけども、その辺りの変更というのがどれくらいの変更が可能なのか。

それからもう1つ、この配置についてですけど、先ほど足立議員からも少しありました。もう一度伺いますけど、バスターミナルをここに持ってくるメリットと、それからなぜここなのかということをもう一度、お尋ねしたいと思います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。まずは変更の度合いですね、ここに示している配置、レイアウトについては大きな変更は、想定はしておりません。こういった各施設、大きなバスターミナルですとか、複合施設、広場、こういった配置は、変更はしないという段階という認識でお願いしたいと思います。どこまで変更という意味合いなんですけども、これは現在示しているイメージパースを基に3D化をしていきます。それで、そういったしつらえですとか、広場の規模感ですとか、先ほど委員さんおっしゃられた動線ですね、動線が本当に今のまんまでいいのか、これから描くイメージでいいのかどうか。

さらには、この駅から町なかに続く動線、これが一番大きな課題の1つになっております。それで、そういったところの横断歩道の位置ですとか、そういったところも現在、県警とか、県の道路管理者と議論を進めていますけども、そういったところをこれから選択を地下道を本当になくしていくのかどうかとか、平面横断をスクランブル化するかどうかとか、単に横断歩道を設置するですとか、そういった選択肢も幾つかパターンもつくりながら、本当にどれが一番市民にとって利用しやすいのかどうかとか。それで、先ほど障がい者の皆さんとの意見交換を重ねていますという答弁させていただく中で、障がい者の皆さんは、この駅の再整備後、利用したいかどうかという問いに対して、93.1%の方が期待をしていますと、ぜひ使いたいと、その上でやはりバリアフリー化が一番重要ですのでという意見もたくさんいただいております。そういったバリアフリー化のイメージもお示しをしながら、本当にこれでいいのかどうかというところも御理解を深めていただきながら、取組を進めていきたいという考えでおります。

すみません。もう1点何でしたっけね。ごめんなさい。すみません。バスターミナルを今の風紋広場のほうに移設するメリットなんですけども、現在のバスターミナルの位置は、自転車ですとか、歩行者とか、バスが反対車線を通行して入ってくるので、今町2丁目交差点が渋滞になっております。それで、そういったいろんな交通課題を解決するために、じゃあ、どこに移転したほうがいいのかというところを2年間かけて検討を重ねてきまして、やはり風紋広場のほうに配置をするほうがよほど交通の安全性とか、バスターミナルの運行ですとか、そういった面での安全確保、交通安全、交通課題の解決、さらにはこちらのほうにバスターミナルを移設すると、今の前の県道にありますバス専用の降車レーンと若桜街道の続くバスの左折専用レーン、これが、減車線化ができるという整理をさせていただいています。そのことで駅と町なかが今よりはつながりが改善すると。それで、そのことによって障がい者の皆さんも駅から町なかのほうにスムーズに横断ができるというメリットもございます。そういったいろんな今

の現状の課題を解決する対策として、今のここに描いている風紋広場のところに移設をするのが一番ベストなんじゃないかという結論に至ったというところになります。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 先ほどから高校生の方と話をされたりということで、夢や希望を与えたいというか、持っていただきたいということで、少しソフトな面の課題に向けて若い方の御意見を伺おうというところだったと思います。しかしながら、やはりハード整備といいますか、車と動線であったり、道路法上のことであったりとか、そういった説明のほうがもしかしたら市民の方には説得力といいますか、分かりやすいというか、本当にこの今、バスターミナルをここへもっていくことで何が変わっていくのか、どう便利になっていくのか、あるいはバスの動線がどう変わっていくのか、それからもっと言えばタクシー乗り場ですね、遠くなっていくんじゃないかというような声、そういったところに対しては、もう少し説明が必要だと思うんですけど、その辺りはどうお考えですか。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。やはりその辺をしっかりと丁寧に説明していく必要があるかなという考えでおります。そのために、やはりこのオープンハウス型という形での説明会が有益かなというふうに考えております。限られた時間でやはり大勢集まっていただく中での説明も当然必要だと思うんですけども、都合のいいときにこうやってきていただいて、職員と対面しながら職員が丁寧にこういったVRとかを材料にしながら説明することで、より理解を深めていただけるものになるかなというふうに認識をしております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 やはり目で視界に訴えるというか、直感的にということが必要ではないというふうには考えませんが、やはりもう少し実務的な部分ですね、いわゆる事業的といいますか、そこの部分の説明が足りてないのではないかなというふうに感じます。ですから、それがなければ夢のようなお話しですね、さっき足立議員からあった夢を持ってもらうことは非常に大事、しかしながら、実務としてという部分の説明がまだまだ足りてないのではないかなと思います。それで、その中でこの市民の方に理解をしていただくと。そうすると、このイメージだけが逆にいいイメージといいますか、そこだけが独り歩きしてしまうのではないかなと思います。先ほどそのオープンハウスのほうも鳥大・環大というのがありましたけど、これ高校とかにはオープンハウス等考えておられないのかどうかということを伺いたいと思います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 現時点では高校のほうは考えてございません。取組を進めながらそういった声をいただけるようでしたら積極的にそういったいろんな場所に出かけて丁寧に説明をさせていただこうという考えでおります。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 本庁舎、駅、鳥大、環大、イオン、イオンモール等があるわけですけど、この年代別のターゲット層というか、どういうふうに読んでおられるのか、もう一度伺いしたいと

思います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。今までの取組を通じまして、やはり若い人たちの認知度がやっぱり低いのかなという実感はしております。今回、予算計上させていただいたSNS等を通じてそういった若い人たちのアプローチをしっかりとしていくかなということで考えております。

ただ、やっぱり駅周辺再整備、全世帯、全ての市民の皆さんにとって関心を高めていく必要がある事業ですので、幅広くプロモーションは実施をさせていただくという考えで取り組もうと考えています。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 すみません。若い方に関心をもってもらう、そのメリットはどのようにというか、なぜ若いターゲット層なのかというところをもう一度伺いたいと思います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。やはりこれから町を、この町を持続させていただくためには、若い人がこの町に残っていただかないといけないですし、活躍をしていただかないといけない、とにかく若い人がこの町で暮らしていかないといい、そのためにこの事業も当然やっていく必要がありますし、そういったこれからの鳥取を担っていく若い人たちに対して、やはり今回の事業をさらに理解を深めていただく必要があるかなというところで、そういった人たちへのアプローチが必要なのかなという認識でおります。以上です。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立孝史委員 すみません。VRについてですけど、もう今、試験的といいますか、デモとか何かあって、これだったらいいだろうという判断が担当の皆さんで協議されたものなのか、委託会社からぼんと出てきて、はい、これですっていうようなものではないと思うんですけど、なぜその話をしたかといいますと、観光客であったり、利用者の立場で駅を降りて、どういうふうに動いていくのか、その道線が、動線が分かるようなVRなのか、例えば車椅子ですよという人が降りてからどういうふうな動線でどこに行けるのかとか、そういう細かいVRなのか、中身がちょっと今、説明だけでは立体感、立体的なものっていうだけしかちょっとイメージがなくて、写真にある市役所のVRのような写真ですけど、こういうものだけ見せられても、駅全体はよくなったなだけの話になるので、その城跡のときでしたかね、そのVR持って歩いて町並みが昔はこうだったなって、何かそういうようなVRのイメージをちょっと勝手に思っているもので、そこのところを未来課としてどういうふうなVRをと思っておられるのか、もしよかったら教えていただけますか。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。これまで担当課としてどのような説明をしていけばより理解を深めていただけるかという検討の中で、ちょうどここに、資料のほうに掲載させていただいている庁舎整備のときに作ったVRがございます。こちら委員

の皆さん見られた方もおられるのかなと思うんですけども、本当にこれ視点を変えて、まさにこの庁舎内を歩いてどのような空間の規模ですとか、いろんなレイアウトとかを自分がまさに歩いているようなイメージで確認することができる映像でした。それで、そこを今回活用することで、本当はゼロから今回のこの取組を進めると何千万もかかるということなんですけども、基本的にはこの駅周辺の建物のモデル化が実際にできてますんで、それを利活用することで大体700万円まで圧縮できだというところでございます。

それで、今回、民藝館通りぐらいまでの商店街のところまでVR化を図りまして、駅から本当に街なかにどのような動線で歩いていけるのかとか、駅構内からその新しい広場にどのようなアプローチができるのかというところまで、自分がまさに歩いているような感覚で確認いただけるようなVRモデルを作成をしていくといった考えでございますし、全国的にこういった駅前の再開発で、こういったVRモデルを使われて、こういった構想段階ですね、素案段階からイメージを市民の皆さんや駅の利用者の方々にPRをされて、そこからいろんな意見を集約されているという事例も調査研究をさせていただいた上で、これが一番ベストだろうなということで選択をさせていただいております。以上でございます。

◆加藤茂樹委員長 谷口副委員長。

◆谷口明子副委員長 関連してですけれども、バリアフリーっていうようなところをしっかりと考えていただきたいと、さっきからお話があると思うんですけども、やはり観光客さんも大事なんですけども、交通弱者の方、その障がいのおありの方とか、あと、高齢者の方がその駅から降りられて、そのバスターミナル行かれたり、駅周辺に行かれるのに動線がやはりどうしても気になる場所だと思います。今のVRのお話しですけれども、要望としてVRでその高齢者の方とか、また、各障がい者団体の方、ちょっとVRが使えない方も障がいによってはあると思うんですけども、しっかりVRで体験、その場所に行ったところのように体験できるVRにさせていただいて、皆さんに体験していただいて、その御意見をしっかりとその素案に反映して、よりよいその駅周辺のレイアウトというか、動線考えていただけるように、点字ブロックのこともありますし、しっかり意見を反映していただきたい、そのVRで体験していただいて実際にさせていただいたところで意見を集約していただきたいと思います。

◆加藤茂樹委員長 要望ということでよろしいでしょうか。

◆谷口明子副委員長 はい。お願いします。

◆加藤茂樹委員長 そのほかございますか。寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 この駅周辺再整備については整備計画の策定を目指しておられるわけですけど、風紋広場のことがちょっと伊藤議員からも質問があったようですけどね、実は当時、トイレについても風紋広場から遠いということで、私も質問で市議会などで言って、当時10何年前ですかね、14～15年前でしょうか、その辺もあったり、また、滋慶学園、鳥取市の土地を医療看護専門学校を設置するときにも、やっぱりそのワシントンホテルとの間の道路が駅南庁舎できた分で右折レーンをセットバックしてすべきだということでそういう話をして左折レーンを設けてもらったと、ちょっと狭くなっていますけどね、滋慶学園が。

それで、また、その滋慶学園の建物を利用した、壁面を利用したラッピングという、ばっ

というね、映写してステージで、広場でやったらというふうな、私もちょっと提案したんですけどね、なかなか壁面などがなかなかあれでしょうけ、また、ブラインド下ろせば、白くなればそれを壁面で利用できるという、広場でね、イベントなんかもできるという話をしたことあるけど、ちょっとされてないようですけど、結局バスターミナルが今の話ではこっち来ると、あの場に。だけ、当然トイレはなくなると、バスターミナルを、トイレを利用されるということになるでしょうし、残りの土地に複合施設がいろいろあって、その広場の考え方、もうああいうイベント広場みたいなのを考えておられるのか、複合施設の壁面を利用したような感じでのバックにして取り組むとか、そういう格好の構想を、その辺をまだまだ、まだ検討段階、再生整備計画で、もうはっきりはまだ出ていませんけど、イメージぐらいでしょうけどね、それもずっと詰めて、やはりイベント広場的な人が集まる施設も必要だと思うんでね、ただ、広場、広場でなっとりますけど、その辺の具体的に、みんなを集めたり、イベントできたりというのは必要だと思うんです。その辺の整備についてはどのように考えとられるのかお尋ねします。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。まず、北口の広場につきましては現在の風紋広場の機能を、これは保管して継承していこうという考え方が基本にあります。それで、とにかくにぎわいを創出していく広場という位置づけでイベントステージもこの大屋根の下に配置をしていきまして、雨のときでもイベントが開催できるようにしていこうと。併せて、この複合施設の1階部分が屋内広場的な機能を今、想定しておりまして、雨の日でもこの屋内広場、複合施設の1階部分でイベントができるようにしたり、当然天気の良い日はこの屋外広場と屋内広場、一体的な使い方もできるようにしていったほうがにぎわいの創出になるだろうなという考え方で今、検討を進めております。

それで、南口のほうには、山白川という水辺空間が駅のこの近くにあるっていうのは全国的にも珍しいと、これは売りになるだろうなというところで、こういった水辺空間を生かした、ちょっと北口とはしつらえを変えた、少し憩い得るような空間の広場として整備を進めていこうという検討しております。以上でございます。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員

◆寺坂寛夫委員 整備計画でいろいろ検討されていますんでね、また、いろいろその複合施設とのその辺の歩道橋っていいですか、そういうことも、丸由とかその辺の構想もあるでしょうし、2階からの歩道橋、その辺も検討の中に入れていただきたいと思います。要望します。

◆加藤茂樹委員長 そのほかございますか。太田委員。

◆太田 縁委員 太田です。このVRを作成するのに時間というか、どれぐらいの日数を要するものなのかまず伺います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。業者のほうと打合せをさせていただいてはいますが、どこまでのレベルを作るかによると思いますけど、今、想定しているようなレベル感でいきますと大体1か月～1か月半ぐらいが必要かなということを伺ってい

ます。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 1か月ということで、先ほど足立委員の質問について数千万かかるものがこの金額になっているということですけど、これ以上安くなることはないですか。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 業者さんとしっかり協議を重ねまして、何とかこの金額で最終見積りをいただいたというところになります。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 先ほど寺坂委員からもありましたけど、風紋広場の考え方、風紋広場も随分定着してきて、市民にとっては憩いの場というか、そういう認識も高くなってきているんじゃないかと。この限られた敷地の中でいろんなものを配置していく、この複合施設ありきで進んでいるのかなとちょっと私としてはあまりうれしく思っているところではないんですけど、そういったことも含めてどういった議論で、先ほど申し上げましたけども、この今、市民が憩いの場としてよく利用している風紋広場をこっちの北口広場に移動して、そして、大屋根も使っていこうっていう考え方であろうとは思いますが、この辺りがもう少し、そのデザイン会議の中でどういった意見があって、この北口広場を真ん中、それで、複合、この配置ですね、バスターミナル以外の配置がどういった議論があってここに今なされているのかもう一度伺いたいと思います。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。まずは議論の過程の中で、一番の優先をしたところはバスターミナルになります。とにかくバスターミナル建設から45年が経過する建物で耐震化も図れてないと、待合環境も大変劣悪な環境であるといったところで、いろんな方々からの改修を求められているといったような状況からスタートだったと思います。その議論を重ねた中でやはりバスターミナルを風紋広場にもう移転するしか、移転するのが一番ベストだろうなという、議論の過程でございました。

そうなるとじゃあ、風紋広場、市民が憩えるような広場空間をどこに配置するかという考え方で、これまで車中心の空間で50年前このような形で整備をされたと、最近是这样いったまちづくりを進めていく上では車中心の空間から人中心の空間にもう転換をしていかないと、もういけない時代になったというところがこれ世界のトレンドになっていると。今回の整備もやはり人中心の空間を目指していこうということは1つのコンセプトに据えて、まず議論がスタートしております。それで、その過程で駅を出た真ん前ですね、正面側、町なかに向かつてはやはり町の価値を高めるという視点も、前に出たら駅、コンコースを出たら車が往来しているんじゃないくて、人のこの活動が見える空間、そういったところでの空間がいいだろうというところと、町なかへの動線を考えたときに、やはり広場から街なかへスムーズに進めるような、歩けるような空間を確保していくべきだというような議論を重ねまして、今のような配置になったというところになります。

やっぱり限られたスペースでありますんで、その中にいろんな機能を詰め込んでいく必要は

ありますけども、その機能については配置も含めて、市民の皆さんとこれまでワークショップですとか、いろんなアンケートですとか、意見交換を重ねて今のようなレイアウトや機能の配置をお示しさせていただいたという経緯になります。以上でございます。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 そのVRなんですけど、これを作ってしまうことで直感的に理解を求められるってことは理解します。しかしながら、変更となりますという、この変更をなかなか市民が、いい、もう決まっとるんだし、どうせ。みたいな感覚になりはしないかというところが強く感じるわけですね。だから、作ってしまって、これでコンプリートされているんじゃないんだよというところ、もっと意見がほしくてこれを作っているんだっていうところも説得力がもう1つ何か伺えてなくて、やっぱり市民の方に理解をしていただく、まず理解していただくっていうのはこのさっきおっしゃっているように、再々おっしゃっている若い人に夢を持っていたきたいんだと、そこはよく分かりました。

しかしながら、ここにこれだけの金額をかけて、見せてしまって、いやいや、変更するんですよっていうところの、このちょっと矛盾感ですね、この辺りをもう少し納得がいくように説明をいただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 筒井課長。

○筒井真二まちなか未来創造課長 まちなか未来創造課筒井です。左下に今後変更となりますというちょっと文脈があまりよくないのかなと理解をしました。今後説明をさせていただく上では変更の可能性があるとか、我々いろんな説明会の中では、当然これはコンプリートされたものではございませんと、それで、当然これからの市民の意見ですとか、事業者の皆さんの意見ですとか、そういったところを踏まえてさらにコンプリートしていきますよという説明もさせていただいている状況でございますので、これからVRを作らせていただいて、市民の皆さんへの説明会、このオープンハウス型の説明会の中ではちょっと文脈も考えながら丁寧に、説明の仕方も工夫しながら対応させていただきたいと思います。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 これから予算の審査を行っていくんですけど、やはりもう少し工夫ですね。市民の方に意見を求めるためにこれを作るんだという、その一言がないと、できますよ、こうなっちゃいますよ、どうだというふうにしか受け取れないというふうに市民の方ですね。ここにいる我々も含めて長く議論はしているわけですけど、我々でも議論、こういう報告を受けている我々でも、なぜバスターミナルがそこなのかだとか、そういった意見がこの委員会の中でも出てくるわけですから、もう少し市民の方の意見をいろんな角度から聞いていただいて、そして、それは意見をさらに求めるために、よくしていくためにこれを作るんだという、その部分をぜひ、強調していただきたいというふうに考えるんですけど、委員長どうでしょうか、附帯というか、こういった意見を申し送ることというのは何かありますでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 谷口副委員長。

◆谷口明子副委員長 私も今その太田委員が言っておられたとおり本当に思っていて、このVRでそのオープンハウス型説明会で体験していただくのは皆様に意見を集約、言っていた

くための説明会ですということをしっかりと周知していただきながら、説明会を行っていただいて、その意見をしっかりと素案に反映していただくということがとても大事じゃないかなって思ったので、同感、同じように思います。

- ◆加藤茂樹委員長 先ほど太田委員の方からそういう意見がございました。この件に関しましてはこの委員会で意見が出たということで、担当課のほうには申し送る形でさせていただきたい、ちょっとしばらく休憩します。

午前 11 時 44 分 休憩

午前 11 時 57 分 再開

- ◆加藤茂樹委員長 委員会を再開します。そのほか質疑ありますか。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

- ◆加藤茂樹委員長 質疑なしと認め質疑を終結します。それでは時間が 12 時となりますので、しばらく休憩します。再開時刻を午後 1 時 10 分とさせていただきます。

午前 11 時 58 分 休憩

午後 1 時 13 分 再開

- ◆加藤茂樹委員長 それでは建設水道委員会を再開いたします。議案第 75 号令和 8 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、所管に属する部分の討論を行います。討論に入ります。討論はありませんか。討論なしと認め討論を終結します。これより議案第 75 号令和 8 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、所管に属する部分を採決をします。本案に賛成の方は挙手を願います。挙手全員と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。太田委員。

- ◆太田 縁委員 ただいまの決定に関して、先ほど質疑の部分でも述べましたけれども、鳥取駅周辺整備推進事業費についてであります。令和 8 年度はこの基本計画を踏まえ、交通ターミナルや複合施設の規模、配置、整備、手法の詳細を求める鳥取駅周辺再生計画の策定を目指している。策定に当たっては素案の公開と併せて多様な媒体やツールを求めることで、市民が直感的に理解を求められるよう、周知を推進するとありますが、計画の策定の周知にとどまらず多様な媒体ツールが市民の意見を広く求めるためのものである、このことについて周知徹底を求めるという附帯意見をつけることを求めます。

- ◆加藤茂樹委員長 ただいま議案第 75 号令和 8 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、所管に属する部分について、太田委員から附帯意見を付すべきとの申出がありました。太田委員からの申出のとおり、委員長報告に意見を付すことに賛成の方は挙手願います。挙手多数です。それでは文案を事務局に作成させますので、後ほど御確認をお願いいたします。

議案第 96 号専決処分事項の報告及び承認について(質疑・討論・採決)

- ◆加藤茂樹委員長 次に議案第 96 号専決処分事項の報告及び承認についてのうち、所管に属する

部分の質疑を行います。質疑のある方は順次御発言ください。よろしいでしょうか。質疑なしと認め質疑を終結します。それでは討論に入ります。討論ありませんか。討論なしと認め討論を終結します。これより議案第96号専決処分事項の報告及び承認についてのうち、所管に属する部分を採決します。本案に賛成の方は挙手を願います。挙手全員と認め本案は承認すべきものと決定されました。

鳥取市循環バス「くる梨」の運行実績・収支状況等について

◆加藤茂樹委員長 続きましてその他、報告に入ります。鳥取市循環バス「くる梨」の運行実績・収支状況等についてを説明ください。宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。それでは、建設水道委員会説明資料2の2ページ目を御覧ください。こちら本日の会議の冒頭にも河田部長のほうからありました、くる梨の運行実績・収支状況等につきまして、報告をさせていただきます。こちらの資料でございますが、まず、上のほうのグラフを御覧ください。こちらは平成16年くる梨が本格運行を始めてからの利用者数の推移を示してございます。それぞれ緑コース、赤コース、青コースと色分けをして利用者数を記載してございます。平成25年度に緑コースを追加しておりまして、平成30年度に年間で39万7,000人と利用のピークを迎えております。その後ですけれども、コロナ禍によりまして、利用者が激減しております。令和2年度には約2割減少というところで、約28万6,000人まで落ち込んでおります。その後、徐々に回復しておりますが、コロナ禍前の水準にはまだ戻っていないといった状況にございます。

次に下のグラフを御覧ください。下のグラフの棒グラフはくる梨の運行に係る年間の運行経費を示してございます。運行経費のうちの緑部分が運賃収入で賄っている部分、赤が市の負担金でして、運行の赤字額となっております。棒グラフは収支率を示しております。御覧いただきますと令和元年度ぐらいから運行経費が急増しているということが分かります。これは人件費が上昇していることを始めまして、燃料費や物価の高騰と老朽化した車両の修繕費が増加していることが原因でございます。収支率は平成23年度におきましては58.9%と約6割は運賃で賄えておりましたが、昨年度令和7年度におきましては収支率は20.7%まで落ち込んでおりまして、実に運行経費の8割は公費で賄われているといった状態になっております。

先日、市長のほうからも答弁がありましたけれども、路線維持のためには収支改善が大きな課題と認識しておりまして、これまで利用促進によります増収でありましたり、運行の効率化によります経費の削減に取り組んでまいりましたが、なかなか収支の改善が難しいといった状況が続いております。つきましては適切な運賃設定について検討が必要となっているといった状態でございます。右側の2番目を見ていただきまして、検討経過のところを見ていただけたらと思いますけれども、こういった課題につきましては、担当課としてもずっと思っておりまして、昨年度になりますが、くる梨の利用実態調査でありましたり、業者、また納税者の方へのアンケート調査等実施しております。

このアンケート結果を基に、バス事業者とともに、どうしたら収支改善につながるのかといったような協議を重ねてまいっております。また、先月ですけれども、鳥取市生活交通会議にも

この件を報告いたしまして、ちょうどページで囲っておりますけども、生活交通会議のほうからも見直しが必要というような意見をいただいているといったところでございます。

今後でございますけども、路線の維持というものを最優先といたしまして、運賃の見直しについて関係者と一緒に協議していきたいと思っております。その際には、昨年度実施しましたアンケートの結果なんかも反映しながら考えていきたいと思っております。また、検討の結果等につきましては、また報告をさせていただきたいと思えます。以上です。

◆加藤茂樹委員長 説明いただきました。委員の皆様から質疑等ございましたら順次御発言をお願いします。足立委員。

◆足立考史委員 足立です。資料提供していただいた同じものなんですけど、ちょっと細かくこの赤字のところなんですけど、どれぐらいの、この赤の範囲で人件費だとか、燃料費だとか、割合的なものが分かればですけども、また後で教えていただけたらと思います。あと、この収支率をどれぐらいまで戻そうとされているのか、そこに今の現状から行くと100円ではなくて、どれぐらいになるのか、ある程度の金額とか、ものを出されて、それが出されて全てオーケーというわけではなくて、やはり利用者側のこともありますので、どういうことを考えられているのか、今の段階で答弁いただけるところだけお願いできたらと思います。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。まず、運行経費の内訳ですけども、運転者の人件費が全体の約7割を占めてございます。燃料費は今、昨年度ベースですけど、約5%です、全体の。それで、車両修繕費が全体の10%を占めているといったところ、そういったところが大きくなってございます。あと、運賃の見直しですけど、どのレベルまでいけばいいのかというのかって、まだこれから検討していくところでございますが、なかなかやはり黒字化というのは難しいのかなと思っております。できれば平成23年の辺りまで戻せたら一番いいのかなと思っておりますが、そうしましても、今の3倍ぐらいまでありますので、単純計算してもなかなか厳しいというのがございます。やはり利用される方からすると少しでも安いほうがいいというお気持ちはあられると思うんですけども、やはり市民の方に広く、納得といいますか、妥当だなと思っていただけるような金額を考えていきたいと思っております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 足立委員。

◆足立考史委員 単純計算では3倍というところが計算されるということでして、かといって安くなって喜ばれる範囲が使われている人にはいいですけど、使われてない納税者の方の立場も十分意識を持っていただいて、ある程度皆さんが理解できる範囲というところがあるかと思えます。十分説明をしていただいて、また、検討にそのことを入れていただけたらというところで要望です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 太田です。この利用者数の年代別っていうか、年代、どれぐらいの年代が利用されているかっていうのは把握しておられますか。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。すみません。年齢まではちょっと把握しており

ませんが、最近の動向ですと、高校生の方でも、特に城北高校の子なんかは青コースを非常に使っておられるという具合に運転手からは聞いております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 現在はいくら梨100円ということで、誰がどこに乗っても100円ということでそれが定着しているわけですがけれども、例えば高齢の方であるとか、それから今おっしゃる高校生であるとか、そういったちょっと料金の設定であるとか、あるいは定期的のようなものがあるとか、少しそういう見直しというか、検討もしていただけたらなというふうに思います。

◆加藤茂樹委員長 要望ということでよろしいでしょうか。足立委員。

◆足立考史委員 続けてですけど、経費の削減ということが必要なのかと思うんですけど、今の時間運行ですかね。言い方がちょっと分からないですけど、何分おきに出ているのかっていう便数とかの見直しとかっていうのも考えられているのでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。先日御説明いたしましたけど、休日ダイヤを導入するといったところもあります。ただ、この休日ダイヤにつきましては、スタートとしましては、やはり運転手不足というのが一番最初に来ておりまして、実際にありましたのは年始ですね。年始運行に赤コース、緑コースを20分間隔から40分間隔にして運行便数を減らして運行経費を減らしたというのがありますが、運転手不足も相まってとなりますが、そういった利用者の少ない時間帯なんかは運行便数を減らすなどして経費を削減はしていきたいと考えております。

◆加藤茂樹委員長 そのほかございますか。吉田委員。

◆吉田博幸委員 人件費は70%って言われましたな。どのようなことでこういう、こっこの市のほうが赤バスを頼むときに、どのような頼み方をして70%ってごっつい大きいように思うんですけど、その辺のところをちょっと教えて。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。このくる梨の運行につきましては、日本交通様、日ノ丸自動車様と協定書を結んでやっておりますけども、基本的にはその運転手の方もくる梨ばかりではなくて路線バスの運行にも携わっておられますので、基本的には人件費の単価とは路線バスの運転手さんを準じて設定しております。以上です。

◆加藤茂樹委員長 吉田委員。

◆吉田博幸委員 ただ、くる梨だけの専用の運転手の方ではなしに、普通の路線バスとか、観光バスとかいろんなところに乗っとなさる運転手の方も、これ、運転手としてくる梨に乗っとなさるということ。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。おっしゃるとおりです。ただ、観光バスであったり、貸切バスと路線バスとは運転手が違うという具合に聞いておりますので、路線バスの運転手はローテーションを組んでおられるという具合に聞いております。

◆加藤茂樹委員長 吉田委員。

◆吉田博幸委員 やっぱり、そうしたら、本体のほうの業績が関係してきとるということですね。本体のほうのあれだ。分かりました。補助金がもっと出ていかないけんということか。

◆加藤茂樹委員長 宮谷課長。

○宮谷卓志交通政策課長 交通政策課宮谷です。おっしゃるとおりでございまして、今、路線バス事業のほうも運転手を確保するために、処遇改善というのでなるべく給与を上げるような形にしておりますので、その考えで路線バスも含めて少しずつ運転手の人件費が上がっております。なので、くる梨の負担金もそうですし、路線バスの補助金のほうも少し増えてきているといったところでございます。

◆加藤茂樹委員長 吉田委員。

◆吉田博幸委員 終わりです。

◆加藤茂樹委員長 そのほかございますか。よろしいですね。以上で都市整備部を終了します。執行部の皆様は御退席ください。

委員会視察報告書について

◆加藤茂樹委員長 それではその他であります。委員会視察報告書についてに入ります。視察報告書の案をお手元に、ホッチキス止めのやつです。お配りしておりますね。これは、参加された皆様からの視察報告書をまとめたものであります。これを今までどおり議長に提出しようと思いますが、取りあえずこれはよろしいでしょうか。これを、なら、このとおり提出させていただきます。それから、次に視察報告書の議会だよりの原稿についてであります。1枚ものの案としてお配りしておるかと思えます。これは文字数、議会だよりの掲載については文字数は決まっております。それで、案としてここに出てますけども、いやいや、このことも入れたほうがいいんじゃないかというのがあれば言ってもらったら、何かしらと入れ替える等々して、文字数をせんとならんと思えますけど、ない。1枚ものの、白いきれいな紙。文字数自体が決まっちゃってるんで、なかなか入れたり難しいかも分かりませんが、何か提案があれば。ホッチキス止めの視察報告書の記載されておるのを基にですけど、今、やれ、考えと言ってもなかなか難しいと思えますので、もし、取りあえず案としてこれであれですけど、もし、何か文言等々これを入れたほうがいいのかございましたら、今日、木曜日、あした中にでも事務局のほうに取りあえず伝えていただいて、それを基にまた改めて事務局に作っていただき、タブレット等々に流す方向にさせていただいてよろしいでしょうか。なら、ちょっとまた、足立委員どうぞ。別にいらんと思うけど。

◆足立考史委員 字数の制限。

◆加藤茂樹委員長 あります。あります。200字ぐらい、もう枠が決まってるんで。

◆足立考史委員 じゃあ、減る分はいい。

◆加藤茂樹委員長 減る分はいいです。減る分はいいです。増える分はいけませんけど。

◆足立考史委員 再度、録音するんで。この字数の制限で何字までかというのと、減らす分にはいいんかということで、ちょっと質問です。

◆加藤茂樹委員長 字数はたしか200だった記憶があります。それで、減らす分は、短いのは全

然よろしいですんで、よろしくお願いいたします。なら、そういう方向でさせていただきます。皆さんにこれ配るの。それで、写真については、これは鹿児島島の初日の分から引っ張り出したやつなんで、ちょっと他の委員会とのバランスを考えながら、上か下かでさせていただいたらと思います。前回の視察のときは2つ、総務と文教が議場から撮ったんで、福祉と建水が座った状態のになっていますので、上、なら、取りあえず上のほうでしっかりとしますよというのね、取りあえず上でさせていただこうと思いますのでよろしくお願いいたします。そうしたら、原稿のほうは今週中ということでよろしくお願いいたします。以上で建設水道委員会を取りあえず閉会します。

午後1時35分 休憩

午後2時15分 再開

付言の協議

- ◆加藤茂樹委員長 そうしましたら委員会を再開いたします。付言の協議に入ります。議案第75号鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分の付言の文案をお手元に配布しております。付言案の内容について委員の皆様から御意見はございますか。このお配りしているのが、テープ起こしといたしますか、先ほど太田委員のほうから発言のあった文言でございます。加藤委員のほうからこの文面について意見を言っていただけたらと思います。
- ◆加藤貴志委員 失礼します。今、ちょっとA I使ってこの文章長いという意見があったので、ちょっとまとめているとこなので、すみません。ほかの方、先に言っていただいてもよろしいですか。
- ◆加藤茂樹委員長 秋山委員どうでしょう。
- ◆秋山智博委員 今、目を通しているところですが、どうでしょうか。1、2、3行目の再生基本計画を踏まえ、この令和8年度の鳥取駅周辺再整備事業は鳥取駅周辺再生基本計画を踏まえ、それで、次から策定を目指しているがまでをカットして、策定に当たってはというふうにしてみたらどうかと思いますが、ちょっと文章を少し縮めてみてはと思ったところですが。いいですかね。
- ◆加藤茂樹委員長 吉田委員、どうでしょうか。
- ◆吉田博幸委員 3段目の鳥取駅周辺再整備事業は、市民が直感的にというように、ここの下の3段まで下りてきて、理解を深められるよう周知を推進するとありますが、計画策定の周知にとどまらず、多様な媒体やツール、市民の意見を広く求めることを求めますというようなことにしてもらったらいけんだろうか。
- ◆加藤茂樹委員長 足立委員、いかがでしょうか。
- ◆足立孝史委員 この文面が本来、議事録から吸い上げてつくられたもので、それで、この字数制限なり、長いとかっていうところの判断は私には分かりますけども、別にこのとおりでもいいじゃないかと思います。
- ◆加藤茂樹委員長 字数制限とかはございませんので、短くてもこれは問題ありません。あくま

でもこれが先ほどの太田委員の言われたとおりのものですので、言ったことしか言えませんけど、あとは短くするとか、先ほど秋山委員と吉田委員が言われたように短くするとか。

◆吉田博幸委員 いや、委員長。

◆加藤茂樹委員長 吉田委員。

◆吉田博幸委員 私らが言っても、太田議員はこのままでいいって言われりゃあこれでいいだ。あんたが、いや、これ書いてもらったら困るがなちゅっていうことだったらこれでいいだが。丁寧に書いてあるけ、これ。ええで、これでも。あんたがそれでええですって言われりゃあそれでええだが。

◆加藤茂樹委員長 ちょっと取りあえず一通り意見を聞いてから、最後のあれしましょうか。

◆吉田博幸委員 最後だけ、太田さんだろう。

◆加藤茂樹委員長 それで、あと、まだ2人反対の方が。谷口副委員長。

◆谷口明子副委員長 令和8年度の鳥取駅周辺再整備事業は、鳥取駅周辺再生基本計画を踏まえ、飛んで、鳥取駅周辺再整備計画の策定を目指しています。策定に当たって、飛んで、計画策定、どうしようかな。計画策定の周知にとどまらず、多様な媒体やツールが市民の意見を広く求めるためのものであることについて周知徹底を求めます。問題は、この計画策定の周知にとどまらず、以下の文章が言いたいことかなって思うので、それはしっかり残して上を削るで。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員、何かありますでしょうか。寺坂委員。

◆寺坂寛夫委員 私は特に付言別につけんでもいいんじゃないかちゅうことで言ったんだけど、単に言ったことしかこれには載せれないということがあって、要は下の3行に市民が直感的に理解を深められるよう周知を推進するとそう言ってあるんで、それをまた同じように市民に広めみたいな感じで出るんで、何かちょっとこの辺が何だ分かりにくいし、何か最後の辺が、2行の一番最後の広く求めたりするためのものであることについて周知徹底、何かちょっと分かりにくい面もあるような気がするし。だけ、ちょっと何とも言えませんな。この辺がちょっと、執行部のほうがそう向きに取り組むって言ってあるのに、再度念を押すような言い方やあれで、何だ、あんまり理解がちょっとね、できんような感じがしますけど。

◆加藤茂樹委員長 寺坂委員と谷口委員はここの下のほうを、市民が直感的に理解を求め、その求められる、そうそう。という意見が寺坂委員と谷口委員。結局、それで、秋山委員と吉田委員が上のほうを削ったらどうかという意見でありました。それで、結局、下から3行目の市民が直感的に理解を深められる周知を推進するとありますが、これが多分、僕も必要ないんじゃないかなと思います。とありますがという、するんだ、するって言っとるのにあえてなっちゃうんで、ここを取ったら、多分そのまんまつつるつつるっと。媒体ツールを用いることで計画策定を推進、多様な媒体やツールは市民に意見を広く求めるものであることについて周知徹底を求めます。ストレートに言っちゃうようなら言ったほうが、と私は思います。あとは発言された太田委員の。太田委員。

◆太田 縁委員 すみません。この事業の概要が、まず基本構想があって、再生基本計画を策定し、それで今度は再整備計画を目指しているっていうことなので、この基本構想、再生基本計画、再整備計画っていうので、ちょっとすごい分かりにくいと思うんだけど、なので、あえ

て全部を入れているっていうところがまず1つあります。あとは、市民が直感的に理解を深められる周知っていうのが、こちらの意見を伝えていますよというふうのみに聞こえてしまうので、そうではなくて市民の意見も求めているんですよと、執行部も3度言っておられたので、その市民の意見を求めるためにこのツールを使うんだっていうことをきちんと示したくて求めたものですので、周知を推進するのは分かりましたと。ただ、市民の意見を求めたいからこういうツールを使うんだっていう、そこが抜けているので、それを入れたくてこの付言をつけたというところですよ。すみません。分かりにくいですかね。

◆吉田博幸委員 だけ、どこを削るだいや。削らずに、このままでええちゅうことか。このままでええ。

◆加藤貴志委員 本当に極限までシンプルにした文章、

◆加藤茂樹委員長 ちょっと挙手の上、お願いします。

◆加藤貴志委員 極限まで削った文章、ちょっと今から読み上げます。

◆加藤茂樹委員長 指名されてから。加藤委員。

◆加藤貴志委員 先ほどの話で、ちょっと今、A Iのほうでまとめた文章、今から読み上げます。鳥取駅周辺再整備計画の策定において多様な媒体やツールを用いるのは、単に計画を分かりやすく周知するためだけではありません。市民が直感的に内容を理解した上で、広く意見を出せるようにするためのものであるという本来の目的（意見公募の手段であること）を市民へ徹底的に周知することを求めます。ちょっとシンプル過ぎたかもしれませんが、よろしいでしょうか。

◆加藤茂樹委員長 ちょっと待ってください。今のは、何の話でしょう。太田委員が言った、事務局がこれはテープ起こししたやつなんですけど、そのA I、何でなんです。言ったことでないといけないんですけど、どういう意味合いでしょう。加藤委員。

◆加藤貴志委員 先ほど冒頭、長いという意見があったので、それを踏まえてA Iを使って要約した内容になります。

◆加藤茂樹委員長 A Iを使って要約、ちょっとごめんなさい。事務局、これ。A Iを使って要約、ちょっとこれ、言ってもないことになるんですけど、これ、通用する問題なんでしょうか。事務局、もし分かれば。

○毛利 元局長補佐 A Iを使ってどうこうのということは置いといて、問題は太田議員さんが言われた趣旨と今の要約とが合致しているのかどうかというのがポイントだろうと思います。なので、例えばその要約した内容が太田議員さんとか、ほかの委員さんからして、いや、ちょっと離れてるんじゃないの、要約の内容がということであれば、それは、内容は要約をしたといってもその内容は違うということになりますから、そこは皆さんで今話を聞かれて、いや、それは違うぞって言われたら違うもんであろうというふうに考えます。以上です。

◆加藤茂樹委員長 はい、ということであります。それで、先ほど言われたのは口頭で言われたとしても、ちょっと、どうしたらいいかいな、これ。いや、読み上げられても、覚えとって、文面化せんと比べる云々ができんですけど、いや。ちょっとしばらく休憩します。

午後2時28分 休憩

午後3時2分 再開

◆加藤茂樹委員長 そうしましたら委員会を再開いたします。先ほどの続きからでございます。付言についてであります。執行部のほうに案として配っていただいておりますのを最終的にちょっともう一度読み上げさせていただきますので、確認をお願いいたします。なお、議案第75号令和8年度鳥取市一般会計予算のうち、補正、補正があるぞ、これね。補正ですね。一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分について付言いたします。令和8年度の鳥取駅周辺再整備事業では、素案の公開に併せて多様な媒体やツールを用いることで市民が直感的に理解を深められるよう周知を推進するだけではなく、多様な媒体やツールが市民の意見を広く求めるためのものであるよう求めますと。

◆寺坂寛夫委員 何だ、これ、費がいるで、事業費じゃないだか。要は、鳥取駅周辺再整備事業費。

◆加藤茂樹委員長 事業費ですか。

◆寺坂寛夫委員 費がない。

◆加藤茂樹委員長 上から3番目の令和8年度鳥取駅周辺再整備事業費、費を、

◆谷口明子副委員長 事業費か。

◆加藤茂樹委員長 費を間に、費用の費を入れていただいて。それでさせていただこうと思えますけど、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

◆加藤茂樹委員長 なら、文面のほうはそれでさせていただきます。そうしましたら、以上で建設水道委員会を終了します。お疲れさまでした。

午後3時5分 閉会

鳥取市議会委員会条例第28条第1項によりここに署名する。

建設水道委員長

令和8年6月鳥取市議会定例会 建設水道委員会

令和8年6月25日(木) 10:00～
本庁舎7階 第2委員会室

都市整備部 (10:00～)

1. 議案【質疑・討論・採決】

議案第 75 号 令和8年度鳥取市一般会計補正予算(第2号)【所管に属する部分】

議案第 96 号 専決処分事項の報告及び承認について【所管に属する部分】

2. その他

鳥取市循環バス「くる梨」の運行実績・収支状況等について(交通政策課)

そ の 他 (都市整備部終了後)

委員会視察報告書について